

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2012年11月）の予測

発表日：2012年12月28日（金）

～景気後退局面はそろそろ終了か～

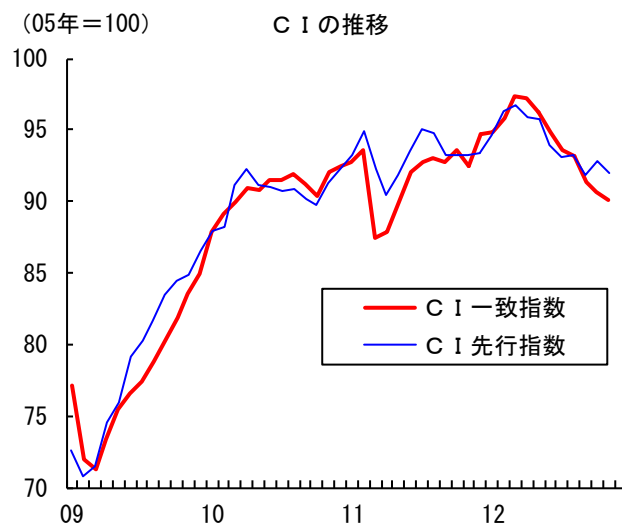
第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

内閣府から1月10日に公表される2012年11月の景気動向指数では、C I一致指数は前月差▲0.7ポイントと、8ヶ月連続の低下が予想される。採用系列のうち、商業販売額（小売業）や所定外労働時間は上昇したが、鉱工業生産指数や生産財出荷指数、中小企業出荷指数などの減少が大きく、C I全体で見ればマイナスになった模様だ。

C I先行指数も前月差▲0.8ポイントと低下が予想される。消費者態度指数や中小企業売上げ見通しD.I.などのマイナス寄与が大きい。

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、前月に続いて「悪化」が維持される見込みである。内閣府の定義では、「悪化」とは「景気後退の可能性が高いことを示す」とされており、12年4月以降に始まった景気後退局面が、11月時点でも継続していることが示唆される。

もっとも、C Iの低下が続く一方で、足元では景気底打ちの動きが出ている。本日公表された鉱工業指数でも、11月の実績は下振れたものの、12年12月、13年1月の予測指数が非常に強く、生産の底打ちが強く示唆されている。C I一致指数に生産関連の系列が多く採用されていることを踏まえると、C Iも12月以降に上昇局面に転じる可能性が高いだろう。この場合、景気後退局面も11月で終息する可能性が出てくる。輸出動向次第の面はあるが、今後は景気に明るさが出てくる公算が大きい。



(注)直近の2012年11月は第一生命経済研究所による予測値